

山東考古研究概略

于 海 広[※]

訳 劉 海 宇

I 山東の中国での地理的位置及びその資源状況（図1）

山東省は中国の東部に位置し、東西最長700、南北最長400km、総面積15.3万km²ある。陸地に河北・河南・安徽・江蘇と隣接して、海を隔てて日本と相望んでいる。

中華文明の母なる川－黄河は山東省で600 km 余り流れて渤海に注ぐ。山東省内に中小の山々1000ヶ所、長さ10kmを超える河川1000本余り、湖沼面積1500km²、そのほか長さ3000 kmの海岸線を有している。



図1 山東の中国での地理的位置略図

II 山東地区考古研究略史

現代考古学が山東で行われたのは割合遅く、多くの学者は1928年山東章丘龍山鎮城子崖遺跡の発見及び1930年－1931年同遺跡の発掘を山東地区フィールド考古学の発端としている。実際、それ以前、すでに山東で現地調査を行う学者（外国人を含む）がいた。たとえば、1906－1907年・1918年に当時日本の東京大学関野貞は山東及びほかの地区で漢代画像石・古代建築・古代墓葬と仏教美術の現地調査を行った。それにして、現代考古学は山東で約100年の歴史がある。

考古の実践及び研究状況により、山東地区のフィールド考古研究過程は3つの段階に分けることができる。第1段階は現在考古学の出現とスタート段階（中華人民共和国建国までの期間）、第2段階は考古学の山東での全面展開段階、第3段階は深く発展する段階であり、それぞれの段階は30年間ある。

※山東大学歴史文化学院

Ⅲ 山東考古研究の主な成果

1. 考古調査の成果から証明された中国の文物大省－山東省

最近の第3回全国文物調査の結果では、山東省は各種類の文化遺跡4万点を発見している。年代から見ると、これまで30－40万年前の旧石器時代から1911年打倒された最後の封建帝国－清王朝まで、それぞれの歴史段階で重要な文化遺跡が発見されている。

2. 先史時代の考古年代学研究成果

前世紀70－80年代に相次いで旧石器文化遺跡30ヵ所あまりを発見し、一番古いのは今から30－40万年前の沂源原人である。旧石器時代から新石器時代の過渡として、細小石器を代表とする細石器文化遺跡は今まで100ヵ所近く発見し、臨沂黒龍潭遺跡はその典型代表であり、今から約2万年前のものである(図2)。



図2 臨沂黒龍潭遺跡の細石器

新石器時代の遺跡はこれまで1万9千ヵ所あまり発見した。前述した龍山鎮城子崖遺跡、1934年発見並びに1936年発掘した日照兩城鎮遺跡は、のちに測定された年代が4600－4000年で、山東龍山文化の研究に基礎を打ち立てた。1959年に山東泰山の麓に大汶口遺跡を発見し、龍山文化より古い大汶口文化を確立させて、その年代は今から6100－4600年前である(図3)。

1978年に滕县北辛村に大汶口文化より古い遺跡を発掘し、北辛文化と命名されて、その年代は今から7500－6100年前で、大汶口文化と直接に噛み合っている。北辛文化より古いのは後李文化で、前世紀80年代に山東臨淄後李村で最初に発見され、その年



図3 大汶口文化彩陶豆と龍山文化蛋壳杯

代は今から9000年前後、下限は今から7500年である(図4)。何年か前に、考古学者は山東沂源の扁扁洞という洞窟にもっと古い遺跡を見つけ、人類の活動により残された焼土面や石質道具・粗質

の陶片が検出された。測定年代は今から11000 - 9500年前の間であり、最古の新石器時代遺跡とされている。

3. 考古学文化基礎研究の成果

(1) 山東龍山文化の研究

i) 調査を通して、山東龍山文化遺跡1500ヵ所あまりが発見され、うち60ヵ所あまり発掘されたことにより、大量の直接的な資料を蓄積し、その分布範囲は現在山東省の範囲よりやや広いことが分った。

ii) 典型的遺跡数ヵ所の発掘により、文化層の堆積から見ると、山東龍山文化は大汶口文化堆積の上に位置し、また岳石文化堆積に重ねられるので、考古層序学的にその相対年代を確定した。

iii) 各遺跡から出土した大量の遺物、特に数多くの陶器を通して、研究者は文化の分期及び型式分類の研究を行い、3期説・4期説・6期説などの諸説があるが、その前後順序の認識では一致している。型式分類では、両城鎮・城子崖・尹家城・青崗堆などはそれぞれ区域の代表遺跡であることが共同の認識である。

iv) 遺跡及び遺物の風格特徴研究では、例えば陶器群の特徴及び制作方法・玉石器の形制・住居跡や墓葬の時代特徴などについて、10数ヵ所の城跡の発掘に基づき、山東龍山文化の基本様相は徐々に判明してきた。

(2) 青州龍興寺遺跡仏教造像の発見及び研究

山東青州の龍興寺遺跡は有名な仏教寺院遺跡であり、仏教造像遺物などが数度発見されてきた。1996年に、長さ8.7、幅6.2、深さ2mの穴倉から各種の仏教造像400体余り出土し、復元できたのは仏頭153・菩薩頭像51・連体頭像36・そのほか頭像11及びほか残塊200点余りある(図5)。数多くの造像は生き生きとして、加工工芸は巧みで、世にまれな芸術品である。造像の時代は北魏から東魏・北齊・隋・唐を経て、北宋まで(529年から1026年まで)、500年にもわたっている。龍興寺の開始から隆盛を経て、最後に廃仏運動の中に廃れていく歴史過程を物語っている。仏教史・造像芸術・彫刻技法などの研究に重要な価値があるとみられる。

(3) 山東蓬萊水城沈没船の発掘

水中考古はフィールド考古研究の重要な構成部分であり、近30年来、山東の威海・蓬萊及び



図4 臨淄後李文化の住居跡



図5 青州龍興寺出土仏像

最近は荷澤で沈没船の発掘を行った。1984年に蓬萊水城で古代沈没船数カ所を検出し、2005年には大型航海船三隻を発掘して、古代航海船の規模・仕組みなどの研究に重要な資料を提供した。また、船中の遺物、例えば磁器・兵器・陶器・石器なども発見され、古代とくに宋代・明代・清代の海上交通及び対外貿易を研究する上で貴重な資料となった(図6)。



図6 蓬萊水城の沈没船と出土遺物

IV 視野を広げ、国際交流を強化し、山東考古研究を推進する

山東大学ではすでにアメリカ・ドイツ・イギリス・カナダ・日本・韓国などの国々と国際交流を展開している。このような国際交流を通して、海外の研究者に中国山東の考古研究成果をより多く理解してもらおうと同時に、一方われわれも見聞を広め、当今の考古学の新しい思想や方法を吸収することができるようにしたい。

V 今後直面する課題

先ずは、現代化建設と文化遺産保護の間の矛盾をいかに緩和するかであり、次いで、以前の調査・発掘及び研究成果について再検討をする必要がある。